報道関係各位

2026 年 4月 22 日
日本アカデミー賞協会

第 50 回日本アカデミー賞授賞式 2027 年 3 月 12 日（金）
東京国際フォーラム ホール A にて開催決定！

「素晴らしきものに、永遠の栄誉を。」

日本映画界の一年を締めくくる最大の祭典「日本アカデミー賞」。来たる 2027 年 3 月 12 日（金）「第 50 回授賞式」を東京国際フォーラム ホール A にて開催することが決定いたしました。

昨年 2025 年の日本映画界は、興行収入 2,744.5 億円と過去最高を記録する歴史的な一年となりました。3 月に開催された「第 49 回授賞式」もその熱気を受け、授賞式チケットは即時完売。テレビ放送では世帯視聴率二桁台の高水準を記録し、幅広い層から大きな注目を集め大成功を収めました。

現在、日本アカデミー賞協会の会員数は前年比 5%増となる 4,200 名を超え、賛同する映画関連企業も 286 社へ拡大。業界の結束はより一層強まっております。まさに名実ともに日本映画界最大の祭典として、かつてない期待感の中で 50 周年の節目を迎えます。

日本アカデミー賞は、入場者数の激減という逆風に苦しむ 1970 年代に、「日本映画の祭典を自らの手で」という映画人の熱い想いによって誕生しました。1978 年の第 1 回開催から今日まで、映画館離れ、コロナ禍や配信の台頭など、映画を取り巻く環境は変化し続けていますが、いつの時代も現場に立ち続けた人々の情熱が、映画館そして授賞式の灯を絶やしませんでした。 第 50 回という大きな節目は、これまでの歩みを大切に受け継ぎながら、第 100 回への大きな礎となる、極めて重要な式典です。そのため、今回、東京国際フォーラムの中でも最大のキャパシティを誇る【ホール A】を舞台に選びました。より多くの方々をお迎えし、喜びと感動を分かち合える日本映画最大の祭典として華やかに開催いたします。

また、映画製作・興行形態の変化を受け、部門構成と選考基準を刷新いたします。新たに「VFX 賞」を設け、「美術賞」は選考対象を装飾スタッフまで拡大。これにより正賞は全 16 部門となります。そして、より多くの作品から選考することを目的とし、選考対象作品の上映回数規定を見直します。

この「第 50 回授賞式」を、映画人、そして映画を愛するすべての皆さまへ感謝をお返しできる最高の機会とすべく、現在鋭意準備を進めております。皆さまの温かいご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本アカデミー賞協会

会 長	島谷能成
運営委員長	遠藤徹哉
実行委員長	市川 南
総合プロデューサー	大角 正
事務局長	金子保之

第 50 回日本アカデミー賞

◆授賞式 開催概要◆

実施日 ：2027 年 3 月 12 日（金）
会 場 ： 東京国際フォーラム ホール A

◆第 50 回から新設･変更される正賞部門について◆

VFX 賞（新規）
実写作品における**【VFX スーパーバイザー】**が対象。
実写映画制作において、技術的進化を続ける VFX 技術を担うスタッフを表彰します。

美術賞（対象者拡大）
実写作品における**【美術監督･美術･装飾】**のスタッフが対象。既存の美術賞において、対象を**【装飾】**まで拡大いたします。

日本アカデミー賞の正賞は、作品賞、アニメーション作品賞、主演男優賞、主演女優賞、助演男優賞、助演女優賞、監督賞、脚本賞、音楽賞、撮影賞、照明賞、美術賞、録音賞、編集賞、外国作品賞の 15 部門に、VFX 賞が加わり全 16 部門となります。

◆選考対象作品の規定改正◆

投票権を有する協会会員（約 4,200 人）が規定を満たした作品から、正賞 16 部門ならびに新人俳優賞を投票し、優秀賞受賞作品･受賞者が選出されます。このたび**【上映回数】**について改正いたします。

＜第 50 回 選考対象作品の規定＞
・ 2026 年 1 月 1 日～12 月 31 日までに東京地区に於いて有料で初公開された 40 分以上の劇場用「劇映画」および「アニメーション作品」
・ 劇場公開を目的に製作された新作に限ります。
・ 東京地区の同一劇場において、**公開初週に 1 日 3 回以上、かつ 2 週間連続して映画館のみで上映された作品。**
（2 週目以降の上映回数は問いません）
※そのほかの規定は公式ホームページをご参照ください。

<お問い合わせ>

日本アカデミー賞協会 事務局
https://www.japan-academy-prize.jp/
電話 03-5565-3941 e-mail: info@japan-academy.jp